

# らぶらす ライブラリーニュース Vol.27

夏号  
2019.6

## 女性の声、ことば

今年のらぶらすフェスタ(6月29日)は、詩人の伊藤比呂美さんをお招きし、講演会「あたしの語る、コトバとコエト。～女が話すということ」を開催します。新聞の人生相談に寄せられる“悩みごとの半分くらいは、自分が女性であることで自信が持てなくなっているケースじゃないかと思う”という伊藤さんに、女性のことばにまつわる、思いやエピソードをたっぷりお話していただきます。今号は、女性のことば、女ことば、ジェンダーから見た日本語など、「ことば」をテーマに図書資料を紹介します。小説や映像作品などの中であたりまえのように見聞きしている「女ことば」も、実際にそのことばを「話している」人は少なくなっているなど、ことばは社会の中で使われ方や意味が変化しています。他にも『数字はわたしのことば』『戦争は女の顔をしていない』など、らぶらすライブラリーでぜひ女性のことばに出会ってください。



『先生、ちょっと人生相談いいですか?』  
瀬戸内 寂聴/伊藤 比呂美 著  
集英社インターナショナル

### 『早稲田文学増刊 女性号』

川上 未映子 責任編集  
早稲田文学会



書き手はすべて女性でそろえ、“まだ語られていない「女性」があるはず”、そしてそれらが“女性以外のものやできごとを照らす”との観点から82人の作品を集めた。伊藤比呂美「夏の終わり。秋のはじめ。」を収録。

### 『私たちに必要だ フェミニストは黙らない』

イ・ミンギョン 著  
タパックス



適切な言葉は自分を守る護身術になる。「断固たる態度」の必要性、女性嫌悪と男性嫌悪の非対等性を丁寧に解説する。非常識なことばや暴言を吐かれ、返す言葉が見つからない、そんな時の「言い返し方」練習コーナーも。

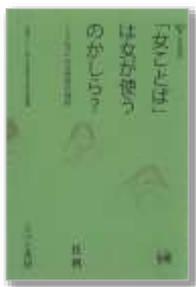
### 『翻訳がつくる日本語 ヒロインは「女ことば」を話し続ける』

中村 桃子 著  
白澤社 発行/現代書館 発売



「女は女ことばを話している」といういわば“信念”に基づいて、女ことばは翻訳の現場で再生産されてきた。「強い女」のセリフさえ、女ことばで翻訳されていく。翻訳の日本語への影響力や、「言語資源」の変化を論ずる。

## [女性の声、ことばに関連する図書・資料]



『「女ことば」は女が使うのかしら?』  
—ことばにみる性差の様相—  
任利 著  
ひつじ書房



『わたしの身体、わたしの言葉』  
ジェンダーで読む日本近代文学』  
江種 満子 著  
翰林書房



『日本人の知らない日本語』  
蛇蔵&海野 凧子 著  
メディアファクトリー



『ジェンダーから見た日本語教科書』  
日本女性像の昨日・今日・明日』  
水本 光美 著  
大学教育出版

### 利用案内

#### らぶらす資料コーナー(ライブラリー)へようこそ!

- ◆らぶらす資料コーナーでは、およそ1万9千点の書籍やDVD、行政資料などを所蔵しています。
- ◆運転免許証や健康保険証など、住所とお名前の確認できる書類をお持ちいただければ、その場で利用者登録ができます。◆1回につき3点まで、2週間の貸出が可能です(AV資料1週間まで)。
- ◆貸出中の場合は予約ができます。◆らぶらすのホームページから図書・資料が検索可能です。

らぶらす開館時間 9:00-22:00

図書貸出時間 9:00-21:30

休館日: 毎月第3月曜日(祝日の場合はその翌日) 及び年末年始





『しゃべり尽くそう！ 私たちの新フェミニズム』

望月 衣塑子／伊藤 詩織／三浦 まり／平井 美津子／  
猿田 佐世 著  
梨の木舎

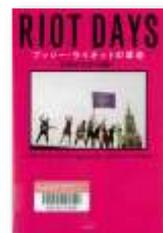
東京新聞記者の望月衣塑子が4人の女性と、性暴力、ジェンダー平等、「慰安婦」問題、外交についてトークを交わす。フェミニズムという言葉に抵抗があるひとにも、現代社会のジェンダーギャップについて多面的に考えさせ、また中学生の教科書の一部に歴史上の政治家ではなく「現職の政治家の演説」が掲載されるなどの違和感についても考えさせる。

女性の  
言葉



『THE LAST GIRL  
イスラム国に囚われ、  
闘い続ける女性の物語』

ナディア・ムラド 著  
東洋館出版社



『ブッシー・ライオットの  
革命 自由のための闘い』

マリヤ・アリオーヒナ 著  
DU BOOKS



『オトナの保健室 セックスと格闘する女たち』

朝日新聞「女子組」取材班 著  
集英社

朝日新聞夕刊の企画を再編集、「セックス」「不倫」「女性の性意識」「セクハラに対して」の各章で、性に関する問題を扱う。核となる読者の投稿のほか、酒井順子氏と村山由佳氏の対談、著名人のインタビューや寄稿、漫画もあり気軽によめる。なぜ自分は「性」をこんなふうに受け止めるのか？悩んでいるひとは必読。田房永子の表紙も手に取りやすい！

からだ  
性



『セックス／ジェンダー  
性分化をとらえ直す』

アン・ファウスト・スターリング 著  
世織書房



『はじめて学ぶLGBT  
基礎からトレンドまで』

石田 仁 著  
ナツメ社



『カサンドラのお母さんの悩みを解決する本』

宮尾 益知 監修  
河出書房新社

カサンドラとは発達障害の夫やパートナーへの葛藤から抱く不安感、孤独感、無力感などにより女性が陥りやすい不安定な精神状態。大人になってから発達障害の診断が出るケースも増えたので、振り回されているかも？と思ったら「夫の行動チェック①～⑩」を。特性の基礎知識や対応法などイラストによる解説が分かりやすく、家族みんなの参考になる。

特性の  
理解



『会食恐怖症  
を卒業するために  
私たちがやってきたこと』

山口 健太 著  
内外出版社



『うつのリワークプログラム  
職場復帰を支え、  
再休職を防ぐ！』

五十嵐 良雄 著  
日経BP社

絵本

『その魔球に、まだ名はない』

エレン・クレイジス 著  
あすなろ書房

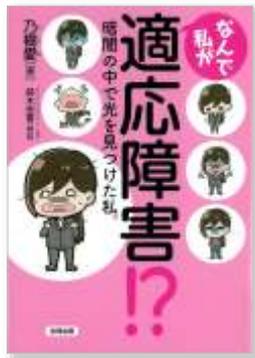


最近まで知られていなかった女子野球には150年以上の歴史がある。1957年、魔球を操る天才少女はリトルリーグの選抜試験に合格しながら、入団を拒絶される。なぜ、どうして？と埋もれていた歴史を調べながら、生き方をも学んでいく。

コミックス

『なんで私が適応障害!?  
暗闇の中で光を見つけた私。』

乃樹愛 著  
合同出版



作者自身が適応障害の当事者であるコミックエッセイ。経験したからこそ伝えられる苦しさや辛さ、そして、病気を理解してくれる人の大切さを、思いのほかさりとマンガで表現している。心理士による解説のページも参考になる。

DVD

『女を修理する男』

ティエリー・ミシェル 監督  
2015年 ベルギー



コンゴ東部バカブのパンジ病院では、紛争下における大勢の性暴力被害女性たちが苦しみ横たわる。病院の設立者で、2018年のノーベル平和賞受賞のデニ・ムクウェゲ医師は「人間の苦悩は、時々場所や人種にかかわらず共通」と訴える。



らぶらすHP



Facebook



Twitter